

会議録
令和3年度 第2回総合教育会議

- 1 日 時 令和3年10月20日（水曜日）
午後2時30分～午後4時40分
- 2 場 所 中央図書館2階 視聴覚ホール
- 3 出席者 市長 星野 光弘
教育長 山口 武士
委員 小野寺 巧
委員 渡部 利枝子
委員 深井 美千代
委員 横田 豊三郎
- 4 署名委員 委員 小野寺 巧
委員 横田 豊三郎
- 5 説明職員 教育部長 林 みどり
学校統括監 小林 正剛
学校教育課長 石井 勝博
教育相談室長 関崎 純也
- 6 事務局職員 政策財務部長 水口 知詩
政策企画課長 齊藤 博之
政策企画課主査 馬場 規雄
- 7 傍聴者 0人
- 8 議 事 学校教育相談の充実について

【星野市長】

日頃より、本市の市政にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

本日は、教育委員会会議、教育委員協議会の後ということで、長時間となりますが、よろしくお祈りいたします。

新型コロナウイルス感染症の感染者数が落ち着いてきました。本市では、今月は1日と3日に1名ずつ陽性の方が確認されましたが、4日以降はゼロが続いています。緊急事態宣言は解除されましたが、引き続き、感染予防対策のPR等は続けてまいります。

本市のワクチン接種状況については、12歳以上の約66%の方が2回目まで完了しています。65歳以上の方は目標を超える約90%です。40歳代、50歳代、60歳代の方については70%から82%となっており、近隣よりも高い割合となっています。しかしながら、10歳代、20歳代、30歳代の方は近隣よりも低い状況ですので、接種の勧奨を続けてまいります。ブースター接種といわれる、3回目の接種につきましても、国から通知が来ております。2回目の接種から8か月後ということですので、医療関係者からスタートすることになると思います。今後も、医師会を中心に、医療機関にご協力をいただきながら進めてまいります。

さて、本日の総合教育会議は、議題を「学校教育相談の充実について」とさせていただきます。

先週の報道によりますと、昨年度の全国の不登校児童生徒は19万6,100名で、過去最多になったということです。埼玉県は、一昨年度から531名増えて9,088名だったそうです。一斉休校など、新型コロナウイルス感染症の影響によって生活のリズムが狂ったことが主な原因だと考えられるようです。また、新型コロナウイルス感染症の感染への不安から登校を自粛した児童生徒は2万900名にのぼるそうです。

本市の学校においては、9月はオンライン授業を組み合わせた分散登校となりました。視察に行きましたが、子どもたちの習得の早さを実感しました。自宅でオンライン授業を受ける小学校低学年の児童は、落ち着くまでに少し時間を要していました。各小中学校では、オンライン授業の成果や課題などについてまとめていることと思います。

それでは、本日の会議が有意義なものになること、そして委員の皆さまのご健勝を祈念してご挨拶とさせていただきます。

【齊藤政策企画課長】

(説明員の紹介)

それでは、以後の進行につきましては、星野市長にお願いいたします。

【星野市長】

本日の会議録の署名委員に、小野寺委員と横田委員を指名します。よろしくお願ひします。

本日の議題は「学校教育相談の充実について」です。私は毎年度当初に、新任または異動した部局長、課長と面談をしています。この面談で、教育相談室長から今年度の教育相談室の方針、目標等について、非常に明確なご説明をいただきました。私自身も課題と考へている不登校について、未然防止、早期発見という観点から対策を進めていくというものです。この対策について、本日、教育相談室長から詳しくお聞きし、委員の皆さまと議論したいと思ひます。

それでは、教育相談室長、お願ひします。

【関崎教育相談室長】

(資料「学校教育相談の充実について」の説明)

アセスの調査は、先ほど説明したとおり、6項目、34問からなるアンケート調査で、回答を項目ごとに偏差値化します。

例えば、児童生徒が「担任の先生は、自分のいいところを認めてくれる」という項目に「○」をつければ、教師サポートの項目の偏差値が上がり、学校適応感も上がることとなります。

「○」が少なく、偏差値が50を下回る項目がある児童生徒は、その項目に課題を抱えており、支援を必要としている可能性が高いということになります。同様の分析を学級単位でも行います。

アセスの調査は、児童生徒の抱える課題と、その支援策を見つけることができますので、児童生徒の学校適応感を高めようという、先生の意識も高めていくことができます。

【星野市長】

教育相談室長より、背景、現状、そして対策として3つの提案をいただきました。ご意見、ご質問等ありましたらお願ひします。

【渡部委員】

不登校の定義についてお聞きします。

【関崎教育相談室長】

欠席日数が、1年に合計30日以上の子童生徒が不登校に該当します。ただし、病気や経済的理由などの特別な事情がある場合は除きます。

【小野寺委員】

教育相談コーディネーターの先生に対して、担当している授業の時間数や事務を少なくするなどの配慮はするのでしょうか。

また、アセスの調査以外の類似の調査を採用している学校について、どのようにお考えでしょうか。アセスの調査に係る費用や調査の流れについてもお聞きします。

【関崎教育相談室長】

現時点で、担当の先生に特別な配慮はしていません。

既存の活動の継続を基本に考えています。ただし、実施にあたっては、先生には視点を切り替えてもらい、より高い意識を持っていただけるようにします。これにより、負担をできるだけ増やさずに活動の充実が図れるものと考えています。もちろん、新しい内容も入りますので、学校現場に理解いただくことが大切です。教育相談室も協力し、この活動が、教職員、子童生徒に寄与するものであることを丁寧に説明したいと思います。

類似の調査を実施している学校もありますが、アセス以外で最も普及している調査は、先生のリーダーシップのあり方に主眼を置くものです。これに対して、アセスの調査は子童生徒の学校適応感の把握とその向上を目的としていますので、異なる調査だと考えています。

アセスの調査は年1回からでも実施でき、上限はありませんが、通常、年に2回または3回実施します。調査を研究、開発するなかでも、3回がよいという結果が出ているようです。調査は、各学校においてアセスの冊子を購入し、主に添付のメディアに入っているデータを使用します。この冊子の価格である3,000円弱が必要な経費となります。手順としては、子童生徒の回答を担当の先生が専用のエクセルシートを活用して集計します。現在調査を実施している学校では、集計結果を指導用資料として活用しています。保護者面談などにも活用できると思います。

【渡部委員】

大人でも仕事に行けなくなってしまう人は多くいます。子どもはさらに、心身の調子を崩しやすいと思いますので、学校がスクールカウンセラーなどと一緒に、チームとなって子どもに対応することはいいことだと思います。ただ、アセ

スの調査は、見方によっては児童生徒が担任の先生を評価するための調査に見えますので、先生が子どもたちの顔色を伺うようにならないか、心配になります。

【関崎教育相談室長】

ご指摘のような側面は確かにあります。先生にとって、厳しい結果となる可能性もあるので、配慮が必要です。先生の好き嫌いを聞いているわけではありません。先生との関係をもっと良くしたいという気持ちで回答することで、数値が低くなってしまいうこともありますので、そのような事例も交えながら、先生に対して調査のねらいを丁寧に説明したいと思います。

【深井委員】

先生も一緒に回答してみたいはいかがでしょうか。先生ではない私たちも、「○」を付けられない項目があると気になります。先生が自分自身を見つめ直したうえで、子どもたちと向き合えるようになると思います。

【渡部委員】

不登校を減らすために、社会的自立を目指すというお話でしたが、「先生にもっとかまってほしい」といような思いから回答する子どもに対して、支援が必要だという結果が出るとすれば、自立と矛盾すると思います。

【関崎教育相談室長】

委員ご指摘の点だけを取り上げれば、おっしゃる通りだと思いますが、調査は、多面的、包括的に進めます。ご指摘の、先生との関係のほかにも、友人との関係に係る項目もあります。さらに、向社会的スキルや、いじめなどの非侵害的行為の項目によって、周囲との関わり方などの課題も確認します。

また、学習適応感については、例えば、非常に高い目標を持っていて、それに達していないことに満足していない児童生徒もいますので、調査において支援が必要だと判断された児童生徒に対して、一律に対応するのではなく、個々人に合った支援を考えていくことが重要です。

教育相談という授業はありませんので、各教科や特別活動など、色々な授業で支援を意識しながら進められるようになればと思います。

【小野寺委員】

不登校など、課題を抱えている児童生徒にとっては、調査によって落ち込んでしまう場合もあると思います。アセスの調査は、不登校対策を強調するのではなく、生徒理解のための調査と考えるほうがよいと思います。

【星野市長】

アセスの調査は不登校の児童生徒には合わないものなのでしょうか。

【山口教育長】

自己肯定感の低い児童生徒には向いてないなど、この調査は、児童生徒によって、向き不向きがあると思います。

不登校といっても、年間30日休む子もいれば、まったく学校に来られない子もいます。ただ、この調査は学校で実施するので、まったく学校に来ない子は結果的に回答することはないと思います。

【渡部委員】

調査を実施する日に学校に来た子どもは、不登校でも全員回答するというのでしょうか。

【山口教育長】

不登校の児童生徒の現状を把握することができるので、調査することに意味はあると思います。ただし、教員は、調査に向かない児童生徒を見極めるスキルを身に付ける必要があります。

【星野市長】

年3回、学期に1回というのは多くないでしょうか。

【関崎教育相談室長】

先ほどお話しした、アセスの調査の冊子やデータが、年3回実施することを前提につくられています。本市で実施している学校は、年2回としています。年度当初に1回、その後は、2学期または3学期開始当初に1回実施しています。

【星野市長】

調査、支援によって子どもたちは目に見えて変わるのででしょうか。

【関崎教育相談室長】

調査だけではなく、先生1人1人が意識し、学校として組織的に対応していくことが大切です。実際に、新たに不登校となる児童生徒が減るなどの成果が出ている学校もあります。

【星野市長】

担任の先生や学校教育相談・不登校対応委員の先生などが中心となって、校内で色々な意見を出し合いながら、児童生徒個人に合った支援をしていくという理解でよろしいでしょうか。

【関崎教育相談室長】

段階に応じた支援を実施します。

まず、レベル1と呼んでいる、児童生徒全員を対象にした支援です。これは、通常の学校活動の中で行う、学習や友人関係などに関する支援です。

次に、レベル2と呼んでいる、調査結果の数値の低い児童生徒に対する支援です。調査前から低い数値が予想される児童生徒もいますが、一見元気に見える児童生徒もいますので注意を要します。

最後に、レベル3です。こちらは、欠席が増えているなど、実際に不登校になりそうな状況の児童生徒を支援するものです。

ご質問のような対応は、レベル2とレベル3が該当します。

【横田委員】

アセスの調査は、小野寺委員がおっしゃるように、生徒理解や学級経営の参考資料程度の扱いでよいと思います。したがって、実施は年1回で充分だと考えます。私が教員として勤務していた私立学校では、もっと厳しい調査が実施されていました。この調査の結果が校長まで行きますので、教員にとって精神的によくないものでした。

アセスの調査は、個人情報をも適正に管理する必要があるため、担任が児童生徒1人1人から直接回収するほうがよいと思います。これにより、児童生徒に正確な回答をするよう促すことができます。安易に実施してしまうと、厳しい結果だけが目立って、先生の負担になってしまうと思います。

問題は、昨年度、不登校の児童生徒が大きく増えていることです。全国的にも同様で、特に小学校6年生が増えていると聞いています。新型コロナウイルス感染症やその対策が影響していると言われていています。そのなかで、授業と同じような席の並びのまま、しゃべらずに給食を食べる、「黙食」が子どもたちに与える影響を心配しています。児童生徒がコミュニケーションをとる大事な時間でもある給食の姿が変わってしまうことが、不登校につながる可能性もあると思います。

アセスの調査は、手段としてはよいと思います。ただ、一番重要なのは、支援が組織としてできるかどうかです。学校なので、クラスが組織の単位の基本になると思います。したがって、調査の結果をクラス替えに活用することもできると

思います。

不登校の要因として、無気力と不安が挙げられています。無気力という表現は、大人から子どもを見たときの表現で、子ども自身は「不安」の状態にあると思います。そのような子どもをどうサポートしていくかが重要だと思います。

私が教員をしていた10年前に、滋賀県大津市で中学2年の生徒が、暴力などのいじめを苦に自殺した事件がきっかけとなり、いじめ防止対策推進法が制定されました。昨年度、町田市の小学6年の児童が自殺した原因は、コンピュータを使用したいじめです。時代の変化への対応も求められていると思いますが、教育相談室はどのようにお考えでしょうか。

【関崎教育相談室長】

不登校の要因については、教員の見解も加わりますので、傾聴など、児童生徒に寄り添う対応ができるようにしてまいります。

いじめに関しては、毎年開催している、いじめのない学校づくり子ども会議において、子どもたちが自主的に情報モラルなどの新しい課題について話し合っています。この会議や、その他の情報収集などをもとに対応したいと思います。いじめについては、してはいけないと指導するだけでなく、何ができるか、何をすればよいかを考えられるように指導しています。同様のことを保護者などにも啓発していきたいと考えています。

【横田委員】

自殺につながるようないじめが発生する可能性のある状況に、どう対応するかが重要です。児童文学をみんなで読むような、地道な取組なども必要だと思います。

【星野市長】

アセスの調査については、不登校を未然に防ぐ効果のある取組だと思います。保護者も子どもの結果を共有すれば、子どもの置かれている状況や、場合によっては家庭に問題があるということに気付けるのではないのでしょうか。

この調査をすでに実施している学校の数と、成果などについてお聞きします。

【関崎教育相談室長】

市内小中学校、17校のうち6校で実施しています。大きな成果を上げているというよりは、各学校において課題の解決に向けて日々、努力をしている状況です。新たに不登校となる児童生徒を減らすことができた学校もあります。

【星野市長】

例えば、ひとつの中学校区の小中学校をモデル校、研究校として、連携して実施することはできますか。先生の理解やスキル向上、チームとしての支援方法の検討などが必要だとは思いますが。

【関崎教育相談室長】

モデル校で先行して取り組み、他校に広げていくことは有効だと思います。

【星野市長】

教育長にお聞きします。アセスの調査を実施すると、先生の負担が増える部分もあると思います。先生の負担軽減のために、スクールサポートスタッフなどの支援員の方に協力いただくことはできますか。

【山口教育長】

一番重要なことは、学校現場が、この調査を有効なものだと理解し、ぜひ活用したいという思いで自主的に進めていけるかどうかです。当然、この調査の負の側面を理解する必要もあります。このような学校であれば、スクールサポートスタッフの協力によって、教員の負担が軽減されるうえに、事業もよりよいものになると思います。

また、GIGAスクール構想によって導入した、児童生徒用のコンピュータでも調査ができるかどうかを研究しています。

【星野市長】

教育相談室長から、学校によって考え方が違うということは事前にお聞きしていました。そのため、現在実施している6校に加えて、1中学校区で実施できないかとお聞きしました。その一方で、不登校の児童生徒が増えている現在こそ、この取組は全校で実施する必要があるのではないかという思いもあります。

【山口教育長】

全校での実施は、熟慮する必要があります。アセスの調査を実施している6校以外の学校が、何もしていないわけではありません。それぞれの学校が適切だと考える、類似の調査や独自の調査によって、子どもたちの実態を把握しています。当然、調査は実施をして終わりではありません。各学校では、調査結果をもとに、それぞれの方法で子どもたちを支援しています。アセスの調査については、まず、今実施している学校が有効性をさらに検証し、その成果を他校にフィードバックすることから始めるのがよいと考えています。他校については、アセスの良さ

を理解したうえで、その学校の意思で導入を決定するものだと考えています。結果として、市内全校がアセスの調査を採用することになれば、有効性の共有だけでなく、教員が市内のどの学校に異動しても調査や支援を実施しやすいなどのメリットもあります。

【星野市長】

アセスの調査について、市内の校長先生は全員ご存じなのでしょうか。それとも、現在実施している学校を紹介するような活動が必要なのでしょうか。

【関崎教育相談室長】

本市では、平成25年度からアセスの調査を実施している学校があります。現在の校長先生全員がアセスの調査をご存じかどうかは把握していません。ご存じない先生に紹介する必要があると思います。

【星野市長】

重要なのは、調査の後、子どもたちをどのように支援していくかだと思います。アセスの調査は、その支援にうまくつなげていけるものだと思います。

【渡部委員】

調査は、母集団が大きいほうが正確性が高まります。まず全校で実施し、その後の採用については各学校に任せるといった手法はいかがでしょう。

【山口教育長】

統計的な調査であれば、母集団を大きくすれば正確性が高まります。学力テストなども同様です。アセスの調査は、児童生徒の学校適応感を見るものです。厳密には、学校というよりも、学校生活の基本単位である学級というほうが正確だと思います。教育相談室が市内全体の状況を把握することが目的であれば、ご提案の手法は有効だと思います。アセスの調査は、個々の児童生徒の学級での状況を把握して、必要な支援を行うためのものなので、母集団の大きさは関係ないと考えています。

【深井委員】

アセスの調査を活用して、どのように不登校を未然に防ぐのでしょうか。

【関崎教育相談室長】

アセスの調査項目には、先生との関係、友人との関係、学習の状況などがあり

ます。個々の児童生徒の回答から、それぞれがどのような課題を抱えているかを分析し、支援の方法を決定します。この結果を意識して学級経営などを進めていくことで、児童生徒の課題を解決し、不登校を未然に防ぐことができると考えています。もちろん、学級経営だけでなく、教育相談計画の作成など、色々な場面で意識していくことが重要です。

【深井委員】

アセスの調査の結果は、学級全体の状況と児童生徒個人の状況の両方を見ることができるようでしょうか。

【関崎教育相談室長】

どちらも見るができます。

【深井委員】

非常に低い数値が出た場合は、どのように対応するのでしょうか。

【横田委員】

不登校になると決めつけて対応するのではなく、不登校になる可能性のある課題を抱えている状況にあることを意識しながら、まずは見守ることが大切だと思います。対面授業のなかで様子を見るなどの見守りです。

【山口教育長】

調査当日や前日にあった出来事によっても結果は変わるということを念頭に置く必要があります。

【深井委員】

調査結果が物差しになることはわかるのですが、どのように不登校の未然防止につながるのでしょうか。

【関崎教育相談室長】

学習面であれば、授業などの日常の様子や発言、テストの結果などをもとに評価をします。生徒指導の場合は、長年、先生の経験や見立てに頼ってきました。アセスの調査により、客観的な数値という判断基準が新たに加わり、さらに具体的な支援につなげることができます。

【山口教育長】

深井委員のご質問は、不登校を防ぐことができるのかという疑問だと思います。不登校につながるような課題を事前に察知して、不登校を未然に防ぐ可能性を高めることができるというのが、アセスなどの調査、支援のメリットだと考えています。不登校には色々な要因がありますので、そのすべてを解決するのは非常に難しいことです。しかし、学校や学級に適応できないという課題は、学校で解決できる可能性の高いものです。この課題が、必ず不登校につながるというわけではありませんが、その解決によって子どもたちの意識、意欲などが高まります。この結果が、不登校になる可能性を低くするということは言えると思います。

【星野市長】

教育相談室長のお話にあったように、先生の見立てをもとに実施されていたこれまでの生徒指導に、客観的な数値が加わることで、有効性が高まると思います。

【山口教育長】

昨年度、不登校の児童生徒が増えた原因は、新型コロナウイルス感染症の影響ではないかと言われていますが、明確な原因がわかっているケースは少ないと思います。本日の議論にも出ましたが、不安や無気力が不登校の要因とされることが多いのは、表面上からわかることだけで判断しているからだだと思います。アセスなどの調査は、不安の理由を発見できる可能性を高める手段となります。ただし、先ほどもお話ししたように、結果を鵜呑みにすることはできませんので、研修などが大切だと思います。

【星野市長】

ありがとうございます。最後に皆さまから一言ずついただきたいと思います。

【横田委員】

教育相談室の仕事は多岐にわたるので、苦勞されていると思います。市のホームページに掲載されている、保護者からの相談とその回答をまとめた「教育相談Q&A」を見ました。教育相談室には、学校を通さず、保護者から直接相談が寄せられると思いますので、その内容を学校にフィードバックしていただければと思います。

【小野寺委員】

文部科学省は、支援の視点について、目標は登校することではなく社会的自立

だとしています。不登校の問題は、成長と自立の問題です。子どもたちの自立の基盤は、周囲の大人が日常的、継続的に子どもたちを理解し、大切にし、支え、寄り添うことだと思います。学校、地域、行政が協力することも重要です。そのなかで行政は、環境づくりが仕事だと思います。

本日の教育相談室長からの3つのご提案、教育相談コーディネーター役の教員の育成、教職員への研修体系の整備、そしてアセスの調査は、必要なものだと思いますので、自信を持って進めてください。

【山口教育長】

新型コロナウイルス感染症の流行が、私たちが不安に陥れています。日々、これまでと違うことに直面し、心に傷を負うような状況になっています。不登校は、この心の傷の深さの現れのひとつだと思います。まだ表に現れていないものがたくさんあると思います。アセスの調査や教育相談だけでなく、色々な方法で子どもたちの状況を把握し、傷を癒していきたいと考えています。手法については、学校とも一緒に考えていきます。

【星野市長】

冒頭にも申し上げましたが、年度当初の教育相談室長との面談でお聞きした、不登校の未然防止などについて、勉強させていただくとともに、委員の皆さまと議論し、情報共有をするために、本日の会議の議題を教育相談体制、特に不登校対策としました。

教育相談室長の3つの提案を支援したいと考えています。

本日の内容は、今後も、いじめの問題などと併せて、この会議において議論したいと思います。

本日は長時間にわたり、議論いただきありがとうございました。本日の会議を終了します。